

# 明日 への 話題

## 成功体験の 醸成



一般社団法人 投資信託協会  
会長

まつした こういち  
松下 浩一

貯蓄から投資へとと言われて久しいが、日本で投資に対する考え方がなかなか変化しない理由の一つに成功体験の欠如があるのだろう。1980年から1990年にかけて、個人金融資産に占める有価証券の割合は26%→33%と増加して株式ブームがあったことがうかがえる。その日本の株価が1989年末に高値を付けて未だ更新していない。痛い目にあってから撤退してしまった人が多いのではないか。それから30数年がたち、現在個人金融資産に占める有価証券の比率は20%に満たない。これは世界中の株価が上昇しても成功体験を得られているのはごく一部の人たちということになる。

しかしその89年末から直近まで毎月1万円ずつ日経平均株価に積立投資していると、累計投資額400万円が840万円になったと試算できる。ITバブルの崩壊やリーマンショックを経て、高値を更新していない日経平均でも十分な投資成果だ。また5年前から始まったつみたてNISAの年間平均運用実績も6.7%程度ある。

やはり投資の原則は「長期、積立、分散」が王道と言える。

米国の401Kや豪州のスーパーアニュエーションは、いずれもデフォルト商品（投資対象を指図しなかった場合の商品）が現金以外の有価証券へ投資する商品となっており、結果的に加入者の成功体験は計り知れない。米国401Kの10年加入者の平均残高は約5,000万円、15年では6,690万円（1ドル＝150円換算）であると言われている。一方日本版401Kである企業型確定拠出年金（DC）は、現在805万人が加入しているが、総資産18兆円の内、約4割がデフォルト商品中心の元本確保型への拠出となっている。個人金融資産における現預金比率と同様、これからのインフレの時代にマッチした選択とは言えない。

デフレの時代が長すぎて、インフレの世界を知らない世代が増えている。今一度、経済とは何か、金融とは何か、もっと投資に対する興味を持ち、十分理解したうえで自分の判断をしていく必要があるのではないかな。

日本の人口で18歳以上は約1億人、現在のNISA口座は1,900万口座超といったところで、まだまだ20%程度である。読者も含めまだ投資への一歩を踏み出せていない方は、まずは少額からでも、来年から始まる新しいNISAで長期積立分散を実践してはどうだろうか？